会　　　議　　　録

１　会議の名称　　第３回岡谷市まち・ひと・しごと創生有識者会議

２　会議日時　　　平成27年７月22日（水）午後１時00分～３時00分

３　開催場所　　　岡谷市役所　９階大会議室

４　出席した者の氏名

（１）委員　　　小口泰史委員、早出隆幸委員、笠原新太郎委員、中村文明委員

中村麻紀委員、浅井秋彦委員、大畠一洋委員、花岡欣二委員

中山昇委員、小池良彦委員、小山智委員、小野正行委員

武田彰委員、薩摩建委員、伊藤敏昭委員、横内敏子委員

久保寛男委員、太田博久委員、小林伊奈子委員

今井竜五委員、中田富雄委員、宮澤昇委員

（２）執行機関（事務局）小口明則、山岸徹、岡本典幸、小松秀尊、相河美咲、内尾祟人

田村賢二、廣瀬智子、仲田健二、両角秀孝、名取浩

（３）その他　　(株)サーベイリサーチセンター　静岡事務所　田原歩

（人口ビジョン・総合戦略策定に関する調査・分析業務　委託業者）

５　議題

（１）地方創生に関する意見交換

（２）（仮称）岡谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）について

（３）「しごと」に関する意見交換（基本戦略１　たくましい産業創造戦略）

①岡谷市工業活性化計画について

②意見交換

（４）その他

６　会議資料の名称

資料１　岡谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）

資料２　平成27年度実施事業一覧

（第４次岡谷市総合計画後期基本計画と工業活性化計画との関連も含め）

資料３　岡谷市工業活性化計画

資料４　岡谷ブランドブック

資料５　第２回有識者会議の議事録

７　発言の内容

|  |  |
| --- | --- |
| 事務局事務局事務局会長事務局事務局事務局議長委員委員委員委員委員委員議長事務局議長事務局委員事務局委員事務局議長委員議長委員議長委員事務局委員議長委員委員議長委員議長委員議長委員議長事務局議長事務局 | （１　開会）本日は、大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。ただいまから、第３回岡谷市まち・ひと・しごと創生有識者会議を開催いたします。会議の前に市民憲章の唱和を行いますので、恐れ入りますが、ご起立をお願いいたします。次第の裏に憲章文がございますので、職員が前文を読みあげます。私たちはからご唱和をお願いいたします。（全員で市民憲章唱和）ありがとうございました。ご着席ください。（２　会長あいさつ）続きまして、会長よりごあいさつをお願いいたします。皆さんこんにちは。梅雨が明けまして急に暑くなったり天候がおかしくなったようなふうでございますが、皆さんには、本当に公私ともにお忙しいところ、ご出席をたまわり、心から感謝を申し上げます。前回の第２回岡谷市まち・ひと・しごと創生有識者会議では、長野県の地方創生の取り組みや、諏訪地域の労働環境、雇用状況などについて、３人の委員さんからご説明をいただき、その後、各委員の皆さんから、大変参考になる意見をいただいたところでございます。本日はその続きといたしまして、前回お時間がなくなってしまい、ご発言をいただけなかった委員さんや、欠席された委員さんからのご意見をまずお聞かせをいただきたいと思います。その後、今後の議論をスムーズに進めるために、岡谷市版人口ビジョンおよび総合戦略を作成するうえで枠組みとなる骨子案をお示しさせていただきます。また、しごとについて議論を深めるため、岡谷市工業活性化計画について担当から説明を申し上げ、意見交換を行ってまいります。平成30年を目標年度とする第４次岡谷市総合計画、後期基本計画では、重点プロジェクトといたしまして、たくましい産業の創造を掲げ、工業をはじめ、商業、観光、サービス業、農林業など、産業全般の振興に積極的に取り組んでいるところでございます。本市は、何といいましても製造業、ものづくりが基幹産業でありますので、製造業を軸とした産業振興により、働く場を確保し、人口の定着をはかり、まちのにぎわいと活力を維持していくことが重要と考えております。皆様におかれましては、しごとについて、どのようなお考え方をお持ちか、気軽なご発言をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。本日はよろしくお願い申し上げます。会議事項に入る前に資料の確認をお願いします。それではお願いします。本日の資料につきましては、次第の次に右肩に資料１ということで、岡谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案というペーパーが１つ、それと、Ａ３の横になりますけれども、資料２ということで、平成27年度実施事業一覧ということで、第４次岡谷市総合計画後期基本計画と工業活性化計画との関連も含めというものがあります。それと、Ａ４のもので、岡谷ブランドブックというものをお配りしてございます。こちらにつきましては、次回、第４回のときに皆さんでお話をしていただこうということで、資料をつけさせていただいてございますので、またお帰りになったときに中身等をご覧いただければと思います。最後に、議事録ということで、前回第２回の有識者会議のときにこちらのほうでテープ起こしをしたものでございます。若干テープ起こしというようなかたちですので内容等不備等ございましたらまた事務局、創生推進室のほうにご一報いただければ訂正をさせていただきたいというふうに思っております。こちらのほうにつきましては、市のホームページのほうで掲載をさせていただきたいと思っておりますので、中身等、内容等、お間違いないか、ご確認をいただければと思っております。資料につきましては以上でございます。（３　会議事項）それでは、会議事項に入ります。今井会長、議事進行をお願いいたします。それでは、会議事項に入らせていただきます。会議事項１の地方創生に関する意見交換を議題といたします。前回、時間がなくなってしまい、ご発言をいただかなかった委員さん、都合によりご欠席された委員さんから、地方創生について、どのようなお考えをお持ちかご意見をいただきたいと思います。私のほうで指名をさせていただきますので、その順番でお願いしたいと思います。（１）地方創生に関する意見交換皆さんこんにちは。前回、皆様からのご意見を聞いた中で、私なりに意見のほうを、発表させていただきたいと思います。まず、金融機関の職員の立場としての意見ということで、話をさせていただきたいと思うのですが、私ども、地域の金融機関というのは、国から今回のまち・ひと・しごとに関して、積極的に当然関与しなさいということでお話を伺っております。去年の暮れから、数回に渡りまして東京の方へ出向きまして、内閣府のほうから、金融機関としてどういうことができるか、どういうふうに携わりますかというようなことでお話をお伺いして、積極的に携わって関与しようという最中でございます。私どもの会社は、私のいる業務部が主幹ということで今回の地方創生についてに携わっておるのですが、地方創生推進サポートチームというのを私どもあえて作りまして、各自治体の皆さん、岡谷市さんはじめ各自治体の皆さんの要望に応えるべく体制を整えているという次第でございます。それから、先日、発表させていただきましたけど、７月９日の日に岡谷市さんをはじめ諏訪の６市町村さんと地方創生にかかわる連携ということでさせていただきました。それで、話は戻りますが、まち・ひと・しごとという順番なのですけど、国へ出向いて石破大臣さんなどのお話を聞くと、これはあくまでも言い回しがいいからだということで、本来はやはり、しごと、ひと、まちという順番が本来の姿ではないですか、という話を聞いておりまして、地域金融機関として、やはり仕事、人に関わるお手伝いが最優先ではないかというふうに思っております。その中で、具体的に私ども、どういうことを仕事面で携わっていくことができるかということなのですが、先日、他の委員の話にもありましたが、創業、それから、販路拡大とか、経営相談とか、あと後継者がいないと困るとか、事業承継とか、そういったところに関わる相談体制を整えている最中であります。それから私ども、金融機関だけですけれど、なかなかノウハウというものがないものですから、信州大学さんとか、諏訪東京理科大さんとか、そういう若い人、関係機関さんとの連携を強化する中で、なかなか対応できない技術的な相談など、そういうものがあった場合にはそちらにというようなことでお手伝いをさせていただいております。それから、次は人ということでいいますと、人材育成ということなのですけれど、私ども、50歳以下の経営者の方もしくは次世代の経営者候補の方を対象としまして、ユースクラブという会の、若手経営者を組織しております。そちらの諏訪全体で250名の方に入っていただいているのですが、継続的に勉強会等を行って、次世代にわたりましてノウハウを学びたいなということで取り組みの方を行っています。それからもう１点、私が以前から思っているのは観光なのですが、私ども全国に260近くの機関がございます。その中で各機関に諏訪地域の魅力を毎年発信させていただいておりまして、全国から諏訪のほうへお越しくださいということで情報提供を、継続的に、微力ながら、させていただいている次第でございます。次に、私は岡谷に53年住んでおりまして、岡谷市民として意見を述べさせていただきますと、６人の家族なのですね。親父、おふくろ、それと私夫婦それから子どもは男２人なのですが、子ども２人は東京、首都圏の大学へ行きまして、幸いに、４年前それから２年前に戻ってきた子どもたちなのですが、改めて子どもたちに就職の際にいわれまして、東京の企業に就職しようか、田舎というか地方の地元の企業に就職しようかどうしようかという話を受けまして、もちろん自分たちの人生だからそれを決めるのは自分たちだけど、ある程度大企業で、企業の組織の一部分として埋もれてしまうのも１つの方法かもしれませんけれど、地元の企業で、中堅企業、中小企業で、自分の能力を発揮するのも１つの方法ではないかと話をしました。今うちの子どもたちがその能力を発揮しているかどうかは別として、今考えてみると、かなり仕事も忙しくて疲れているとは思うのですけれど、生き生きと毎日仕事に通っているという姿をみると、やはり地方に戻ってきて、自分のできる最大限の能力を発揮して仕事に向かっている姿というのが１番大事かなというふうに思っております。仕事の話に戻りますけれど、私どもは、全国の商談会とか、ビジネスフェアで取引先の方、出展させていただいているのですが、その出展先で、かなり高評価を受けてらっしゃる企業もありまして、その中で例えば色々優秀賞とか特別表彰とか受けられる中堅中小企業がこの岡谷市にもいらっしゃいます。そういう企業を積極的にアピールしてということも地元の子どもたちが戻ってくるのに大事だなというふうに思っておりますし、私たちが住んでいる岡谷市にそういう優秀な企業が多くありますよということを中学高校から継続的に教育していくのも１つのカギかなというふうに思っております。それからもう１点、過日、新聞で、岡谷市から転出もしくは岡谷市に戻ってきた人を対象にアンケートを行ったというような話が出ておりましたが、これは私の子どもに聞いたのですが、例えば岡谷市から学生として出ていってそのまま岡谷市に戻らずに、東京や首都圏に就職した若者がいると思うのですけれど、そういう人たち対象にアンケートとるのも大事ではないかと。戻ってきた人たちにアンケートとるのはもちろんだと思うのですが、物理的にできるかどうかは別として、帰ってこなかった学生というか若者対象にアンケートとるのも大事ではないかという、私の子どもの意見なのですけれど、そういうふうな話もありました。ただ物理的に難しいかと思うのですけど、そういうのもまたぜひご検討いただけたら、そういうふうに思います。それからもう１つ要望でございますけれど、よくいわれるのが公共の交通網の維持が大事だといわれているのですが、なかなか人口減少していくと、公共の交通網の維持が難しくなると。それがまた人口の減少につながるということで負のスパイラルが起きているような地域もあるようですので、岡谷市の場合はシルキーバスを運行されていると思うのですけれど、なかなか路線の確保というのが難しいというような新聞にも出ていましたけれど、ぜひそういう公共交通の維持ということについてもぜひ議論されていると思いますがよろしくお願いしたいところです。それから後、前回の会議で他地域との連携というような話があったと思うのですが、それ以降の新聞見るとビーナスラインの再活動ですか、それから下諏訪町では繭・製糸業を関連した活性化というようなことで、岡谷市にも関連してくると思いますけれど、ぜひそういう面ですね、連携できるものは連携するという姿勢をぜひ、産業振興、それから観光面でお願いしたいというふうに思っています。以上でございます。私は今回地方創生の会議に参加するにあたり、色々と自分でも考え、色々なことを調べてまいりました。今回、地方創生の総合戦略を立てていくという中で、その背景、政策的な背景は色々ところで報じられておりますが、１点、期間、時間軸というものをしっかり捉えて策定していくことが大切ではないかなというふうに感じております。具体的に私が調べた中では、2015年から2020年までということで、５年間の期間の中で一定の成果を求められているというかたちになりますので、中長期的な視点はもとより、短期的にも成果のあがる政策を立てていくことが求められているのではないかと思います。その中で今回総合戦略を立案していくにあたりまして、私は３つの視点が必要ではないかなと考えております。１つは工業の活性化であり、もう１つは観光を軸とした商業の活性化、３番目が住みやすさ、暮らしやすさの追求だと考えております。１番目の工業の活性化につきましては、岡谷市の工業の重要さというのは前回の会議の中でも議論されましたけれども、日本で有数の加工業の集積地というところで、この強みを生かしていくのは当然必要になってくるというふうに思います。そうした中で岡谷市においては既に工業活性化計画というものが作られて実行されております。もう既に様々な成果が上がっているかと思いますけれども、ここの工業活性化計画、今日後ほどご説明があるということですが、ここを軸に展開していくことが、やはり求められるところではないかと思います。その中で私が考えるところといたしましては、２点ありまして、１点目は事業の承継をどうしていくか、先程委員さんのほうからもありましたけども、ここが１つのポイントになるのではないかと思います。もう１つが、なかなか経営が思うようにいかない企業の経済面での支援というところではないかと思います。事業の承継というものに関しては特になかなか同族というか一族の中で承継するのは難しくなってきているという状況があるかと思います。貴重な技術力や生産設備といったものが、事業が承継されずにそのままになっているというところが現実としてあるのではないか、もう一方で岡谷市の創業の、起業の低さというのも前回にもありましたけれども、その新しい起業家と事業承継で悩んでいる、こういった方を結び付けて事業として岡谷の技術なりその生産設備を次の代に残していくと、そういったものを考えてやっていく必要があるのではないかと思います。もう１点の経営体制につきましては、これは私ども金融機関の使命と、役割として地元の大切な産業をいかに守り抜いていくか、ここについてしっかり我々も関与していかなければならないというふうに考えております。それから商業、観光を軸にした商業という面ですけれども、ここにつきましても岡谷には非常に素晴らしい自然と、そして歴史的な遺産がありまして、もう既にシルクを中心としたまちづくりというところの取り組みをなされていると思いますけれども、ここにぜひ、観光客の方が市内を回遊するストーリーづくりをつくっていただいてアピールしていっていただきたい。そこに岡谷の名産品をアピールする等してやっていくことが大切ではないかなと思います。観光客が楽しめるということは、やはり地元の我々も岡谷にいて楽しい、岡谷のものが美味しい、岡谷のものは非常にいいものだという実感が大切だと思いますので、まさに市民が皆で岡谷のブランド力を高めていく、そういった取り組みをぜひやっていけたらいいのではないかというふうに考えております。それから３つ目の住みやすさ、暮らしやすさの追求というところですけれども、ここは人口減少といった問題にも関わるところかと思います。私が主な建設業者さんが、諏訪圏内で年間に建てている新築の案件の件数を少し分析してまいりました。諏訪圏６市町村の中で新築の住宅というのが、足元の４年間では平均して880件あります。その中で岡谷市の新築の案件というのは180件程度です。岡谷市の人口というのは諏訪圏の中で約25％、新築件数の比率でいきますと20.6％ということで、人口比に比べて4.4ポイント下回っているという状況です。一家３人の方が住むとすると、年間約120名ぐらいの方が本来岡谷市に住んでいただきたいのが、諏訪圏他市町村の方に家を建ててそちらで暮らしているというかたちになります。５年間で累計すると恐らく500人から600人ぐらいの人口を我々本来岡谷市にいていただきたい方が諏訪圏の中で流出したという状況ではないかと思います。その背景というのは色々問題があると思いますけれども、１つには土地の少なさや、やはり地価の高さといったようなものがあるかもしれません。この点につきましては、空き家の利用ですとか土地の有効活用ということで、勤労者世帯を中心に、岡谷に家を建てて住みたいと、既にいくつか対策を講じられていると思いますけれども、そこにつきましても引き続き、注力して岡谷市内に家を建ててもらうというところの政策をうっていく必要があるのではないかなというふうに考えております。そしてもう１つ、住民のサービスといった点では行政だけでなく民間の力を活用して、例えばゴミのステーションであったり様々なものが考えられると思いますけれども、住民がいかなるニーズを持っていて、そこにどういったことができるのか、民間の力も活用して、暮らしやすいまちづくりが求められるのではないかなと思います。工業・商業を活性化させる中で雇用の場を生み出してそこに働く人は岡谷市に住んでいただくというようなかたちが、政策を展開する中で有機的に機能してシナジー効果を発揮していくような取り組みをしていかなければならないと思いますし、またそういったことを期待するところであります。私ども地域金融機関としましても、様々な場面でそういった政策に関わっていくことは可能だと思っております。また岡谷市に暮らす一市民として、同じように取り組んでいかなければならないというふうに考えおります。以上です。テーマとして私には少々大きすぎてなかなか自分もこれに対して表現することは非常に難しいのですけれど、ただ工業に直接携わっているものですから、その中で、そこを通じて思ったこと等をお話しさせてもらおうかなというふうに思います。この地域、工業に期待するところが大変大きいと思いますし、私もそういったものを感じてはいるのですけれども、それに対して、自分も応えられているのか、または工業全体として応えられるように、一生懸命考えて努力はしていると思うのですけれども、その期待通りのことができている状況ではないと思っております。そんなところで、今お話しの新しい産業とか工業の創業というのですか、そういったものも求められているわけなのですけれども、いわゆる日本の高度成長のころは、非常に小さな資本でスタートできましたし、それから仕事を通じて研究開発をして、そういうところに企業の発展ができてきた時代だったのですけれども、今こういった工業のある意味で成熟してきている。または逆に猛烈な勢いで技術だとかテクノロジー、それから商品が変化しております。これについていくにはなかなか、それに対して創業していくには非常に難しい時代になってきてしまっていると思いますし、また大きな資本をかけていかなければそういったものについていけない。身近なところでは2000年頃ですか、それまではカメラというものがフィルムのカメラで写真撮っていたのですけれど、90年頃ですか、ある日突然デジタルで写真が撮れるようになって、それについていけなかった、またそれに対して対応できなかったところが今、大変厳しい状況になっているわけでして、それから身近なところでは、パソコンがハードディスクドライブという磁器記憶装置というものを使って記録してきたのですが、当社その仕事を25年くらいやらせてきていただいているのですけれども、既にハードディスクドライブというものが必要でなくなってきている。全部フラッシュメモリでＳＳＤというものに切り替わってきているものですから、一気にその仕事がなくなりそうな状況になってきております。では次の仕事は何かというのを見つけていかなければいけないのですけれど、今変わったからといって次の仕事が見つかるかというと、対処できるかということはできない状況が多いと思います。それに対して、その前から次の時代には何が起きてくるかということを考えたり、戦略をとる情報を得る中で、次の世代に何ができるか、どういったものがでてくるかというものを察知して考えて、長い時間をかけてそれに対処していけば、まだ今のような技術だとか商品の変化があっても、変わっていける体質、変わっていけるのですが、そこで少しでも楽をしようとすると、手を抜いたりこれでいいのだとかと思ってしまうと、次のときについていかれないという状況になってきてしまうものですから、日々が、そういった情報だとか、お客さんだとか、展示会だとかに足しげく訪問したり出展したり、展示会等も積極的に参加していく中で、そういった新しいニーズを取り込んでいけば可能性としては十分あるのではないかなというふうに思っています。それから人、そこで仕事がいくらあってもやはりここに人がいないと、人、特に経験者、若者がいてくれれば、そういったものも、自分たちが仕事として得てきても消化できればいいのですけれども、なかなかそういった、すぐでの対応が難しいところがありますが、私工業高校、岡谷工業の出身なものですから、この地域、地域がら、やはりものづくりに興味をもっていただける若者をいかに増やしていくかということが大切かなというふうに思っております。そういった面では、今校長先生もいらっしゃるのですけれど、そういった面で教育しっかりやっていただいて、そういった優秀な生徒さんが通学してまた世の中に出てきてくれているものですから、ぜひそういった人たちに少しでも誇りをもってこの地域に残っていただいて働いていただけるような地域になってくれればいいなというふうに思っております。それからまちということなのですけれど、私、長地の横川の山奥に住んでいるものですから買い物難民なんですね、私たちは車を持っているのでいいのですけれども、年寄りはなかなか買い物に行けなくて、今買い物に行かなくても宅配とか色々あっていいのですけれど、年寄りがなかなか買い物にいけなくて、女房がやっているわけなのですけれど。若者などは、ちょっとしたいいものというか、まとまった買い物だと松本とか東京に行ってしまうらしいのですよね。ここ大型スーパーだとかあることに対してきてもらったり、あることに対して個々の商店さんの中では考え方でふと感じているネガティブ、ふと感じている方がいらっしゃると思うのですけれども、やはり明るいというか近代的というか、若者がここにいてくれるようなそういった施設があってくれる、もっと増えてくれると私は個人的にはいいかなというふうに思っております。そうすることによって若者がいて当然若者があってそういった場所があっていうことに対しては多少の問題点があることもあると思うのですれども、やはりそれを乗り越えていく努力をしていきながら若者が集うまちになっていかなければ、将来は、今の私が求めているような人というものが集まらないのではないかなというふうに思っております。それからもう１つ、我田引水的なところでいけないかもしれませんけれども、この岡谷というのは諏訪の周辺というのは非常に土地が狭いものですから、土地も高いという、価格も他の地域に比べ高いと。それから狭いものですから、どうしても面で事業、工場の拡張というのがなかなか難しい。ということになりますと、狭い地域、狭い土地をいかに有効に使うかということを考えて取り組んでいかなければいけないと思います。それから工業についても、例えば私どももプレスという仕事がメインでやっているのですけれど、昔はその音がガチャンガチャンてすごい音がしていたので、近所から迷惑がられた業界なのですね。しかし、今は音が出ないのができてきています。それから他の業界についてもそうなのですけれども、自分たちが住んでいて、そこで自分たちのやっている仕事が近所の人や店に迷惑かけてはいけないということをそうとう認識してきている中で、そういった公害を出さない環境、公害が出ない環境の中で仕事が今できるようになってきているものですから、ぜひ行政さん、これは行政さんにやってもらわないと仕方がないのですが、より有効、狭い地域、狭い土地であるけども最も有効に使えるようなかたちの、用途としての問題もあると思うのですけれども、ぜひ積極的にやっていくような会社さんなどには何とか対応していただければありがたいなというふうに思っています。少ししゃべりすぎてしまったり、的外れなこともあったかもしれませんが、以上です。前回欠席をしてしまいまして申し訳ございませんでした。私は、立場的には労働者あるいは勤労者労働者の立場、それから働く人たちの地位が向上するためにはというような立場で少しお話をさせていただければなと思います。労働者はたくさんいるわけですけれども、この岡谷の地域は製造業に働く方が大変多くて、私もその製造業の労働者の集まりの組織に所属しております。ＪＡＭ、ジャムというのは中小の製造業の労働者の集まりの団体でございますが、もとよりこの諏訪地域はそのような労働者の方が大変多い地域でございます。働く立場のものからすると、働きやすさ、それから住みやすさ、ということが大きく影響してくるファクターだというふうに思っております。働きやすさという部分は多くは個々の企業で労働環境を整備していくということが中心になるかと思いますが、住みやすさということになると、地域行政の皆さんの力が大変重要かなというふうに思います。今、何人かの委員の方からお話しにも出ておりましたし、前回の議事録等を拝見するとそのような話題になっておりますが、やはり住む場所が、岡谷は大変、限界にきているのかなという、今も何名かのお話がございました。どうしても岡谷以外のところに新しい住居をつくらざるを得ないというのが、新しくこの地で働いている人たちの思いなのではないかなというふうに思います。その反面人口が減っているということで、世帯数は多いのだけども、一世帯の家族の人数が非常に少なくなってきてしまっている。この対策を何とかしてより多くの人が住める地域、場所になっていけばいいのかなというように思います。この岡谷の地に多くの企業があって、製造業中心に働いているかたたくさんいるのですけれど、かつてに比べると、岡谷市以外から通勤をして仕事にきていらっしゃる方がだいぶ増えているのではないかと思います。私が会社に入ったころは、社員のほとんどが岡谷市の人でありました。もともとこの地に生まれ育って勤める方も多かったですし、よそからきてもこの土地に家を建てて住むという方が多かったのですが、今は全体の６割ぐらい、社員の６割くらいしか岡谷の人ではない、多くの人は外から通っているという状況です。ぜひこの辺の住まいの問題をできるだけ行政の力、あるいは色々な皆さんの知恵を出しながら、多くの人が住める環境をつくってほしいなというふうに思います。それから色々国の仕組みがあると思うのですけれども、私たちＪＡＭという団体は、中小企業を中心とした製造業の労働者の集まりというのを先ほど触れさせていただきました。このＪＡＭという組織では、ひところ、雇用問題が大変なことになったころに、国の雇用調整助成金という仕組みをより多くの企業で使えるようにということを労働団体として、組織内にいる国会議員を通じて、国に働きかけをいたしました。労働者の働く環境の１つの国の仕組みを緩和したことでより多くの労働者が救われ、雇用が継続されたということにつながったと思っております。このように住まいの問題を国の仕組みあるいは地域の行政の仕組み等で、多くの皆さんが助けられるような仕組みがあるのであればそういったところを広く活用、ＰＲして、住まいが持てたり長く岡谷の地に住めたりそういう仕組みを援助していくことも、行政としてやれることではないかなというように思います。あとは全体の教育のようなところの話になると思いますが、環境問題や色々な幼いころからの教育というものを、昔に比べると積極的に今やっているというふうに思います。仕事をすることに、ものづくりをすることに対する子どもの頃からの意識づけということでは、それぞれの企業中心に、ものづくりの大切さということを教育の中にぜひ取り入れていただきたいなというように思います。今週たまたま今度の土曜日になりますけれども、連合長野という労働団体が主催する親子ものづくり教室というのを毎年県内各地で夏休み子ども親子対象に行っているイベントがあるのですが、今年たまたま当社で場所を提供してやることが決まっております。そんなことを通じてものづくりの大切さを小さなころからわかってもらって、将来社会人になるときに、色々な仕事あるのですけれども、ものづくりもやりがいのある大切な仕事だということを子どものころからわかってもらうようなそういう教育もしていっていただきたいなというように思います。前回の議事録を拝見した中で、この会社に働いて良かったと思えるような、そういう企業が増えていくことは大切だというようなことを触れられておりました。私どもの会社のことを自慢するようになってしまって恐縮ですが、先日退職者の会という総会が年に１回行っている会があるのですけれども、それに出席いたしました。多くのＯＢの方が来られるわけですけれども、その中のほとんどの方がこの会社に働いて勤め上げられて良かったというふうに言ってくれます。そういう企業がたくさんあると思いますけれども、現役の社員としてもありがたいことですし、ぜひ、働いて良かったと思える、住んで良かったと思える岡谷市になっていってほしいというふうに思います。以上です。前回は出席できなくて申し訳ありませんでした。地方創生ということで、私のほうで考えるのは今は人口減少あるいは少子高齢化の問題というのは、これはもうそういうふうになっていくということですよね。いわばそういう中でも魅力的なその地域、まちづくりをどういうふうにしてつくっていったらいいのかいうようなことが考えられるというふうに私は踏まえております。岡谷市の将来人口推計を見ても、どのグラフみても下がっていると。2020年ですか、出生率が2．07になってもまだ下がり続ける、これはもう若い女性の絶対数が少ないものですから、生まれてくる子どもの数も少ないということでずっと下がりっぱなしという、そういう状況がもうみえているわけですよね。そういうところでどんなふうに色々政策をとって、まちづくりをしていくかというようなことになると思います。前回の皆さん委員さんの意見、考えを拝見いたしました。私も非常に共感する部分がありました。何人かの委員さんがお話になっていた、要はこういった問題については諏訪広域、諏訪圏域で考える、あるいは連携をとっていくべきではないかというお話が何名かの方から出ていましたけれども、私もそういうふうに考えております。あと、岡谷市の人口動態をみるとやはり20代前半の男女が極端に少なくなっていまして、これは進学だとか就職だとかということで岡谷市を離れるというふうなかたちになっているというふうに書いてありますけれども、確かに若い人たちが大都市圏に対する憧れあるいは進学等で行くというのは致し方ないということだとは思います。ただ、やはり就職をする段階で、地元へというふうな考えになるというふうな方向にもっていかないとなかなか難しい部分はあるのではないかなというふうに思います。実は私もＵターンをした１人です。東京で学校とあわせて10年くらい働いていまして、29の時に諏訪に帰ってきました。そのポイントになったのはやはり仕事ですね。やはり、自分がやりたいような仕事があるかどうかというのが１つのポイントになっていました。もう１つは長男ということもありましたものですから、両親の面倒を見なければというのも１つありましたが、やはり大きなポイントは仕事だったわけです。ですので、少なくとも諏訪で生まれ育った人、若者というのは、諏訪の魅力というのは、十分に私はわかっているというふうに思っています。ですので、その辺、相当地域に魅力があってどうしても帰りたいというようなまちというかたちであれば、就職をするときに、地元でというのは選択肢のなかに入ってくるというふうに思いますので、そういうふうなまちづくりができればなというふうに思います。あと、色々と調べたのですが、例えば諏訪の地域に移住したい、あるいはＩターンをというふうに考えている人たちに対しても、諏訪の圏域では実際に色々と動いておられますよね。諏訪圏の移住交流推進事業連絡会というところが諏訪６市町村の合同移住情報ポータルサイトを立ち上げていますよね。移住セミナーも既に何回も東京で行っているという取り組みをしています。それとあともう１つポイントになるのが、ふるさと回帰支援センターが実施している住みたい県移住したい県ということを毎年やっていますけれど、2014年には山梨県に第１位を奪われましたけれども、それ以前というのは何年もずっと長野県が１位ですよね。色々とそこの相談に来るかたに共通している部分というのは、その方たちが長野県に対してどういう印象をもっているかという部分になってくると思いますが、長野県は南北に非常に長いので、いわゆる長野市のほうを向いているのか、松本なのか、あるいは軽井沢なのか、諏訪なのかよくわかりませんけれども、共通していう点については、とにかく自然が非常に豊富であること、大自然に恵まれているということが１つ、もう１つは特に東京圏の方というのは、要は鉄道、ＪＲだとか、要は１本でつながっているというのが非常に共通した認識だというふうに聞きました。そういうことも踏まえて、こういった取り組みというのはもう既に行われているということですので、これは引き続き、どんどんやっていくというかたちがやはり必要なのかなと思います。銀座ＮＡＧＡＮＯでも昨年の12月7日ですか、行ったというふうにも聞いておりますので、ぜひそれを諏訪６市町村合同で、どんどんやっていくというふうなことなのかなというように思います。それと移住した人たちの考え方として、いくつかの考え方があるようなのですが、１つが、自分のもっている仕事をそのままこちらにもってくるというふうに考えている方がいらっしゃるというのが１つ、それから、来てから仕事を探そうという方、それから比較的ここで増えてきているのが、いわば、こちらにきて農業をしたいという方が増えているという話を、色々と相談の窓口になっている方から話を聞きました。そういう意味では長野県というのは相当魅力的な県だということは、皆さん印象として持っておられるというように思いますし、特にこの諏訪地域というのは第１級の観光地ですよね。全国に知れた観光地でもありますし、温泉もありますし、というふうな様々な要素がつまっているのがこの諏訪圏域だというふうに思いますので、そういったことも踏まえて、色々と働きかけをしていけば、それなりに先が見えるようなかたちになっていくのではないかなというふうに思います。今日は仕事に関係した話もまた後でというような話がございますけれども、なかなか色々な資料を見るにつけ、非常に厳しい現実がそこにあるなと痛感しております。以上でございます。前回は都合により欠席いたしました。申し訳ございませんでした。県でも、県版総合戦略を作っています。そういうことで、今関係の皆さんに色々なお話しを聞きながら策定を進めているところでございます。その一環として先週14日の日には阿部知事がまいりまして、諏訪地域の６市町村の首長さんたちの意見交換をさせていただきました。当然今井市長さんにもおいでいただいて、ご意見を頂戴したわけでございます。その中で議論の１つが広域連携でございます。広域連携といっても色々な分野があるわけですけれども、今回地方創生の発端がいかに人を増やすか、人に定着していただくか、人を集めるかということがキーワードになっておりますので、やはりその根っこは、そこに仕事があること、そこに雇用の場があることだということだと思います。そういうことで今後、広域連携も産業振興について議論しましょうとなりました。それで、産業といっても色々あります。ということになりますと、この地域の最大の売りはやはりものづくりであるということ。それから観光地が豊富にあるということで、ものづくりと観光の分野での広域連携について知事と６市町村の首長さんと論議いただいたということでございます。もともとものづくりですとか、観光のニーズ、スタイルが非常に多様化しているということで、１つの市町村だけではなかなか対応しきれないというのがもともとあります。また他市町村との競争の中で、この地域を選んでもらうということになるためには、やはり広域連携、広域発信といったものが必要なのだというふうに感じます。議論の中では、具体的には、例えばものづくりについては、諏訪地域全体で統一ブランドとして諏訪ブランド、この場合の諏訪というのはローマ字でＳＵＷＡブランド、という統一ブランドとして構築をしてそれを発信していきましょうというような話でありました。またそのための人材育成をしたり、人材の誘致をしたり、または発信を強化していきましょうということでした。諏訪地域では、もう既に広域連携としては、諏訪圏工業メッセ、もうこれ13回やっております。今年もやります。来年以降もやる予定で今やっているわけなのですけれども、これはこれで広域連携の例としては非常にいい効果があがっているわけですけど、これをやりながら、これは外からお客さんに来て見てもらうというそういった展示会なのですね。プラス今度はここから外へ出ていって発信しましょう、諏訪の技術を発信しましょう。そういった取り組みももっと強化すべきではないか、連携してやっていきましょう。という提案があったわけでございます。観光については、やはりこれについても各首長さんから様々なご提言がございました。今井市長さんからも、シルク産業、シルク文化による広域連携というご提案をいただいたところでございます。これは諏訪地域内に限らず、県内のシルクに由緒あるところの都市間連携をして、発信しましょうというご提案だったわけでございます。知事からは、県内だけでなくもっと県外もシルクで連携したらどうかというような意見がありました。さらに、地域内では、先ほど少しお話にもありましたけれども、ビーナスラインという非常に一級品の資源があるのだけど、これを広域的には今、発信できていない。昔やっていたのですけれども、それがだんだんなくなってきてしまって、継続的な発信ができていない。これをもう１回再構築して発信しましょうという話ですとか、あと2020年東京オリンピックを控えて、諏訪湖ですとか高原を活かしたスポーツ合宿を地域で誘致しましょうという個々の市町村ごとではなくて、地域で誘致しましょうという提案もあったわけでございます。諏訪地域は広域連携、まだまだ弱いと思います。もっとできることがあるのではないかというふうに思っていますし、また、１つ１つの市町村ではやはり限られた財源の中、限られたスタッフの中では、全てのサービスについて最高級のサービスを全部提供するというのはやはり今後は限界があるかというふうに思います。という面でも一緒にできることは一緒にやっていくという方向性はしっかり捉えてやっていかなくてはいけないのではないかと思います。ということで、岡谷市さんの総合戦略のほうですね、今の議論されたものづくりですとか観光に限らず、広域連携といった視点を踏まえた施策をやっていかれたらいいと思います。ありがとうございました。前回から２度にわたりまして、各委員さんのご意見等発言をいただいたところであります。またこれを色々ととりまとめいたしまして、これからの会議の運営の中でそれぞれ活かしてまいりたいというように思いますのでよろしくお願いしたいと思います。次に会議事項２、（仮称）谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）についてを議題といたします。事務局から説明をお願いいたします。（２）（仮称）岡谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子（案）について【資料１より説明】基本戦略というような言葉で表現しておりますけれども、こういったことを骨子にしながら、総合戦略をまとめていきたいという素案でございます。これは第４次岡谷市総合計画の後期基本計画の重点プロジェクト、３つの重点プロジェクトといっておりますが、たくましい産業の創造、輝く子どもの育成、そして安全・安心の伸展でございます。それらとの整合もとりながら、こんな考え方、あとは岡谷らしさ、岡谷の特色を出していくということで、岡谷ブランドの発信ということを取り上げてまとめたいというふうに思っておりますが、このこと自体について何か意見ですとかご質問ございますでしょうか。とりあえず前に進める中でまた色々な意見を途中でいただくというようなことでよろしゅうございますかね。では、そのようなことで進めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。それでは次に会議事項の３、しごとに関する意見交換を議題といたします。先ほど説明いたしました総合戦略骨子案の基本戦略１ですね、たくましい産業の創造戦略でございますが、これに関わる個別計画としまして、工業活性化計画につきまして事務局より説明をさせていただきますのでよろしくお願いします。（３）「しごと」に関する意見交換（基本戦略１　たくましい産業創造戦略）①岡谷市工業活性化計画について【資料２、資料３より説明】②意見交換【質問】先ほど岡谷市工業活性化計画、大きいＡ３の表のところで、現状の岡谷市の工業での粗利額というお話がございましたけれども、これは平成30年度の目標で、現在でも1000億を超えて1300億円あるというお話がありました。あと事業所数も、聞き逃したのですけれど、この目標に近いと思います。企業誘致のほうはわからないのですが、そういう状況で、先ほどお話を伺っていると、現状でこの目標の辺りのところは達成ができているということのようですけれども、それで認識としてよろしいでしょうか。【回答】この計画の本文の11頁をご覧いただきまして、実は工業統計、毎年12月末現在で１年間の統計をとるのですけれども、実はこの計画を策定したのが平成25年度でございまして、そのときの１番の最新の数字がこの11ページの下の表、平成23年製造品出荷額が1,874億で、粗付加値額946億、この数字しか当時計画をつくるときにはわかっていなくて、それで実は、平成24年12月31日現在の工業統計が出るのが、翌年度の末、平成25年度の年度末ですので、平成26年の３月で、この計画の印刷が終わったころ、24年度の数字がでまして、その時も1300億と出ていて、実はこれ見ていただくと、平成21年、これリーマンショックがあったときなのですけれど、687億まで落ち込んで以降749、946と上ってきてはいるのですけれど、まさか1300億、本当に市内の製造業がたくましいなと思っているのですけど、非常に恥ずかしいというか。本来ですと、1400億とかそういう目標を立てなければいけないと思うのですけれども。【質問】はい、わかりました。そういうことではなくてですね、私は工業の出荷額とかそういうところをとるものですから、ここでの今後の話の認識として、そうすると、これくらいのことを達成するだけのこの力があっても、今の岡谷市の状況なのだと認識でいたほうがいいということ、そういう解釈でいいということですかね。今後の地方創生、岡谷市の創生ということを考えるにあたっては、工業という観点で考えでの、例えばこういう数値的なその認識ということで。【回答】工業活性化計画の目標1000億円を見直さなくてはいけないのだと思います。24が1,350、25年度が1,310。若干下がってしまったのですけれどほぼ横ばいですので、30年度で当然1400億とか、本来であればこの工業活性化計画の粗付加値額を見直さなくてはいけないと思っています。【意見】この件、計画をまとめた人たちがいますので、少々、感想というか、いけるぞというような話をしていただければ、尚心強いとかなと思います。【意見】ここに１ページの将来の工業都市次世代を創造するものづくりのまち、これ何でもやれてしまう。ただ、金がないし、自分も新たな創業支援という、これから事業承継というのを見てみると、自分たちもそういう環境にあって、自分もそれだけにあるわけなのですけれども、若い人たちもやはり創業になると、今の私たちのような事業だと二の足踏んでしまう。お前、独立するくらいの気持ちになれ、そうすれば俺も一緒になってやっていくし資金も一緒にやっていくから、というけれど、なかなかそうなるのは難しいのですよね。難しくてなかなかできない。という考えなのだけれど。【質問】粗付加値額はいかがですか。今、目標が1,000億だったのですけれど、現実としては1,300をクリアできているということで。なかなか浮き沈みがあるとは思いますけど。【回答】材料費ウエイトがだいたい少ないところだと10％くらい、少し上になると30％から40％くらいなものですから。粗利の1,300億円で生産量としてはだいたい製造業としてはあっている数値かなと思います。ですから絶対値の売り上げを増やすことをやっていけば、当然良くなるわけですので、我々としてはとにかく売り上げを伸ばす、最大限、１番手っ取り早いことだと思うのですね。それだけではないのですけれど、当然たくさんあるわけですけれども、そんなところですかね。ありがとうございました。いずれにしましても、それはそれでリーマンからの回復でここにきているという認識はしていただきたいと思いますし、もう１つ、岡谷の製造業はそういうふうにがんばって数字を残してきているという認識をしていただけるといいのかな、そんなふうに思います。【質問】粗利のほうはおそらく、リーマンショック以降のところで上がっていると思うのですが、企業誘致数のこの数字は達成可能、頑張ってやればできるかと思うのですよ。ですが、全事業所数ですが、540社というのがなかなか、これをキープするのが非常に難しいと私はこれについては考えています。当然高齢者、もう廃業してしまうという企業がたくさんありますので、これをなかなかキープするということが、大きな私は難題、難問だと。こんな、大きな数字でいいのかなというのはどうでしょうか。【回答】新規創業支援ですとか、先ほどの話の事業承継とか、商工会議所さんにも創業を一生懸命やれるといいと思いますので、何とか努力目標にできたらなと思います。【意見】当然、銀行さんも今いらっしゃるので、その部分のお金の部分は補助つけていただけると思いますので、どうにか頑張ろうと思っていますけれど、今の新規で事業を起こすという方、私どもの若い時代と若いといったらおかしいですけれど、30代とうちらの伝統と違いますので、やはりその今いう人づくりをしていかないと、やる気のある人間が出てこないと、特に私どもの近くには岡谷工業高校という高校がありますので、すごくものづくりに向いているところだと思いますし、県立の岡谷技専がありますから。それも長野県の中ではあまりないですよね。そんなかたちでもって、ありますので、そのときいない人は少し、皆さんがやる気出していただければ、そういうところへ行って勉強していただければ、委員さんからもお話がありましたとおり、せっかくキャンパス設けているのになかなか学生が来ないというような状態。企業が行ってきなさいっていっているらしいですよ。でもその従業員の皆さん方が、行かないのですよね。企業がお金を出すから行って勉強してねというのだけども、なかなかそういう若い方がいらっしゃらない、というのはすごく大きな課題だと思うのですけれど。それを育てていかないと、いくら支援しようという枠があってもそこに乗ってこないので、その辺ですよね。それを考えていかないとかなり厳しいなという感じはします。ありがとうございます。この件に関しましては委員さんの方からこの間、大学院生の話があって、数がゼロになる状況が続くというご指摘もありましたものですから、やはりそういったもので人材の熟成ということでどうやっていったらいいか、また考えていかなくてはいけない。先ほど皆さんからのご意見の中にも人づくりということも大切だというようなご指摘もありましたけれども、そのような部分もやっていかないと魅力ある地域、魅力ある人材育成というのにはつながっていかないのかなというふうに思います。ありがとうございました。その他ですが、本当駆け足できているものですから、なかなか理解いただけないものもあるかと思いますが、今説明しました工業活性化計画についてご質問、ご意見等ございましたらお願いしたいと思いますが。【意見】今目標の数値というところでいろいろ議論あったかと思うのですが、私、この計画に練り込まれている20の施策というのは非常にどれも的を射ていて大切だと思います。結果の数値は岡谷の環境によって少し変わりますけれども、こういった取り組みを行政と企業が一緒にやっていくことで岡谷としての企業の文化というか、他の市町村にない取り組み、企業が単独で自分の販路を開拓していくのみではなくて、行政や私どもを含めてまちが一体となって取り組んでいくということが根付くことによって、まさに先程の行政の下支えという話がありましたけれども、一企業だけではなくて、地域のパワーとして、こういったことでそれぞれの企業が元気になっていくと、そういったことが実現できていくというところが、今後まちとして企業の誘致や、育てるのに非常に大きな財産になっていくと思いますので、私どももしっかり、金融の面はもちろんですけれども、それ以外の面でもこういったところに積極的に参加をして、岡谷のものづくりのブランド力というものを高めていきたいなというふうに考えます。【意見】教育の立場から少し話をさせていただきますけれども、この計画が結構長い、長期にわたる計画になっていますけれども、技術の面から考えますと、大体が10年に１回新しいシステムに変わるというふうにいわれています。簡単な例でいいますと、音楽プレーヤーですけれども、カセットのプレーヤーからＣＤに変わる、ＣＤから今はもうなくなりましたが、ＭＤというのがありまして、ＭＤからメモリスティックというかアイポットとか、ああいうものに変わる、ここら辺がずっと10年周期で、そろそろアイフォンとかアイポットとかがでてきてから10年経つといったときに、クラウド化し始めました。ということで、大体10年周期、他にも携帯で言っても同じですね。ｄｏｃｏｍｏという会社になってしまいますが、ムーバからフォーマにかわるまで９年から10年、それからクロッシーという名前で最近はＬＴＥというのですか、そういう新しい高速通信に変わるのにやはり10年。大体10年周期で変わる。ここら辺を考えながら、産業の開発、産業の発展というのを考えていかなければいけないというふうに思っています。ですから、今あるものを10年後作っていこう、作り続けていくというのはたぶん難しいと思っています。そのためには私たちの立場ということを考えますと、社会人教育がやはり重要ではないかと思います。社会人教育については、やはり２つありまして、基礎学力、基礎知識をしっかり身につけるというのが重要だと思いますし、その次に先ほども少し話が出ましたが、今後の動向をしっかり見定めてそれについて勉強していくということも必要だと思いますので、この二本柱が必要だというふうに思います。最後に、色々基本計画のところに３Ｄプリンターとかそういう話が出ていますけれども、やはりそれはシーズであって、シーズつまり技術があって、それをどうやって活かすかということを考えなければいけないのですが、こういう製品を作っていきたいというニーズをとらえていかないと、シーズばかりあっても難しいかなというふうに思います。先ほども騒音がないプレス機があるなどという話がありましたが、それはサーボプレスとかそういうものだと思いますけれども、やはりそれも今までのプレス機からサーボプレスに変わる。では何ができるかというと全然わからずに数年間使ってきて、同じ加工方法をやっていて、付加価値のあるようなものを作ってこなかったという中小企業が多くあります。ですからシーズから始まるよりはニーズも捉えながらものづくりというのを発展させていくのがいいのだというふうに思います。まとまりがないですけれども、以上で終わります。はい。ありがとうございます。先ほど意見の中にもございましたけれども、ひとというのを大切に捉えていかなければいけないというふうに思います。それともう１つ、委員さんから創業というか、いわゆる仕事しやすいそういった環境づくり、市としてのそういうまちづくりそんなものも求められておりますけれども、これが実はこのＡ４の紙の２番ですとか、水色のところの４つある中の２番目がそのようなことになってくるのかなと思っているところでございます。こういったところで、盛り込んでいかなければならないのかなというところでございます。その他にもこの工業活性化計画、たくましい産業の創造戦略、これに絡めまして、ご意見ですとか、ご提案、質問等ございましたらお願いいたしたいと思います。【意見】先ほどの委員さんの意見を納得して、聞かせていただきました。ものづくりということももちろんあっての、基本的にあってのことなのですかね。やはり、事業家というか、ビジネス家を育てていくというふうにしないと、今のような委員が発言されたようなスピードについていかれないというふうに、同感です、また私も、社員さんには、次のものを見据えてやっていこうということは常に言いながら、５年先、10年先何が起きてくるかというものを考えて、捉えて、今の仕事で生活もして、また今の仕事で開発、投資をしてその次10年20年につながっていくようなものづくりをやっていこうというふうに思っているものですから、良いこといってくれましたね。ありがとうございました。ありがとうございました。経営しているというだけでなく、ビジネスとして見通す、そういう人材を育てていかなければいけないという意味でよろしいですかね。だいたいそのような認識で。そのようなこともまた色々盛り込んでいければとそんなふうに思っております。【意見】この骨子、そのもののことなのですが、岡谷まち・ひと・しごと創生総合戦略と。国のものがあって、県、国はこういう施策でいくのだと。そしてその次に県はこうだと。そしてその次、最後に岡谷がこういうふうにしていくのだということがあるのですけれども、おそらくどこの市町村でもこの創生総合戦略というものを作るのだと思うのですけど、この中でやはり岡谷らしさ、岡谷だからこういう創生総合戦略をたてて、こういうふうにしていくのだということがすごく必要だと思うのですよ。その中でこの基本戦略の４つがあって、その中で特にやはり３、４というのはたぶんどこのまちでもこういったことに取り組むと思うし、あまり差別化もできないようなことではないかと思うのです。やはり岡谷は産業、特に工業、製造業のまちだし、そしてそこが前回の会議でも言ったとおり、やはりそこでしっかりいい会社になって、粗利をしっかり稼ぐような会社をつくっていただいて、そしてそれが従業員さんにも巡っていく、そしてそれが結果的に消費に回ったりあるいは結婚できる、子育てできる、そして人が増えるという流れが作れると思うのです。そしてさらに、岡谷ブランド、岡谷は、諏訪の中でも岡谷らしさ、製糸業とかそういった歴史を踏まえたものや、あるいは豊かな自然とか、そういうことに恵まれたまちの中で製造業が輝き、人が輝き、そして人が増えていく、そのような流れができるといいと思います。その中でこの４つ戦略があるのですけれども、やはり岡谷らしさ、岡谷オリジナル、岡谷だからこういうことをやるという点では、全部４つに注力すべきだと思うのですが、その中でも特に１番のところに注力をして、岡谷はやっぱり働く場所がある、素晴らしい会社がある、そして東京へ出ていった子どもたちが戻ってきたり、あるいは東京やよそで働いている方がここに来る、そんなかたちがつくられることが、らしさ、岡谷ならではということにつながると思うのです。なので、この創生総合戦略がこれからだんだん、今骨子ですけれど、具体化されていく中で、これ意見なのですけれども、できるだけ岡谷だからこういうことになったのだというようなものがつくられればいいなということを、願うというか、そうなればいいなと思います。以上です。はいありがとうございます。本当にそこのまちのもっている特色、力、能力、そういったものを活かしていかないと、そのまちらしさというかそのまちを伸ばしていくことというのはできないのかなというふうに思います。地方創生の強烈なある意味での都市間競争というふうに言われております。本当の意味でそれぞれが知恵を絞ってこの総合戦略をつくっていかないとならない。それと同時に、やはりもう１つは先ほどありましたけど、近隣市町村とどうやって力を合わせてやっていけるのか、これも大きな要素だということをよく説明を総合戦略の会議ではいただくことがございます。やはり特色あるまちづくりをしていくことがまず基本かなというふうに思いますので、１番２番というようなご指摘いただきましたので、また工夫していかなければいけないと思いますが、また皆さんの知恵をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。【意見】今おっしゃいました、仕事をつくる、いわゆる安定した雇用を創生するというのですか、キーワードに働きやすいところ、皆が働きたいまちをつくるのだったら、前回の時に監督署の所長さんがおっしゃったように、勤める人がやさしい企業にしていかないと皆来ないと思うのですよ。だから、今ブラック企業というような話が出ますよね。そういう企業がない地域にすれば、みんな働きたいと思うのですよ。そういうまちをつくっていくというものが大きく仕事も会社も増やせるし、労働者も増やせるし、そしてそこにまちに住む人も出てくるということを考えると、その辺の改革をしていかないと、やはりいけないのかなというのが、仕事をしているオーナーとしては、そういう皆が勤めていて良かったねという会社をつくっていくということが、企業人として求められるべきことであると思うのです。今そういうふうに働いてもらえる会社というか、働く喜びを感じてもらえる会社、これはもう本当に、製造業の中だけではなく、全ての企業がそういうことかなというふうに思っております。それも１つの観点として、この地域の会社はこうだよみたいな、こういう会社づくりを目指しているのだよというようなことをアピールできればいいかなと、そんなふうに思います。またよろしくお願いしたいと思います。その他にございますか。だんだん予定の時間がきておりますので、ご意見をいただいたり、色々していただく部分が大きいかなというふうに思います。一旦ここで閉めさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。それでは事務局のほうから少しお願いをいたします。（４）その他ご討論ありがとうございました。まだまだ、おそらく、ここの基本戦略１の部分については、もう少し皆さんの方もご意見もあるのかなというふうに思っておりますので、第４回の時に、またしごとの部分を初めにもう１度意見をいただければというふうに思っております。それと、これからペーパーをお配りいたしますので、今日、皆さんの意見を聞いた中でこのようなこともどうかというのがありましたら、ぜひそちらのペーパーの方に記載をしていただいて、ＦＡＸまたは次回でも構いませんので、お持ちいただければというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。事務局の方からは以上でございます。本当に今日も熱心なご意見、ご意見等議論をしていただけたかなというふうに思っております。色々な資料が、ボリューム多くで大変な部分があるかと思いますけれども、色々な人とお話をしていただいて、こういうことを聞いてきたとか、そういうことで構わないのかなというふうに思いますので、また次回第４回ということでございますが、引き続きお願いをしたいというふうに思います。それでは一応、本日の会議事項を閉めたいと思います。どうもありがとうございました。（４　閉会）それでは次回ですが、8月７日の金曜日、午後１時から３時までということで、予定をしております。場所はこの場所でございます。お忙しいとは思いますが、ぜひご出席のほどをよろしくお願いいたします。以上をもちまして、第３回岡谷市まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了といたします。ありがとうございました。 |

上記に相違ないことを確認する。

会長　　今井　竜五